

東日本大震災にかかる社会学研究者による
震災問題への取り組みについて
＜調査研究・関わり／地域別・テーマ別＞
(2011年8月3日とりまとめ分を加工)

会員からの情報提供および、環境社会学会、日本都市社会学会での情報収集をあわせてとりまとめ。(いつ)、どこで、だれが、どんな研究をしているのか、について情報整理。

1. 被災地毎の調査研究プロジェクト、あるいは関連情報(訪問した、出身者である等)
※ 今回はこちらを優先してならべてみました。
2. テーマ別研究情報(特定の調査地なし)

紙幅の関係上、内容の簡略化、文体の短縮化、抜粋を行っている。

1. 被災地毎の調査研究プロジェクト、あるいは関連情報(訪問した、出身者である等)

＜被災地全般＞

・所属は理学部だが、災害社会学、地域社会学が専門。奥尻島の復興調査、有珠山の復興調査、災害文化研究、防災教育の実践を行っている。

3月11日以降随時 奥尻島の災害対応・復興過程に関する問い合わせ対応

4月29日～5月2日 宮城県の沿岸部予備調査

5月1日 「若手防災研究者の会」勉強会に参加(東北大学)

5月22日 リアス・アークミュージアム(気仙沼市)学芸員訪問、陸前高田市、大船渡市予備調査

5月24日 大船渡市復興局を訪問、陸前高田市博物館資料の文化財レスキューに参加

5月31日 南三陸町「震災復興計画策定研修会」にて、奥尻町の復興過程を報告

8月8日 気仙法人会 地震・津波に関する講演会(所属組織の地震・津波の専門家による)、参加者との意見交換

8月9日-10日 日本災害復興学会の一員として、被災地トークイベントに出席予定

この他、北海道内の津波防災、防災教育に関する支援活動。

(北大地震火山研究観測センター・定池祐季会員)

・「東日本大震災・災害復興まるごとデジタルアーカイブス」(プロジェクト略称:311まるごとアーカイブス)

詳細は、<http://311archives.jp/> の趣意書、実施計画書等をご覧ください。

趣意書

<http://311archives.jp/fbox.php?eid=10632>

実施計画書

<http://311archives.jp/index.php?gid=10123>

世話人は吉見俊哉会員
(独立行政法人 防災科学技術研究所・三浦伸也会員)

<青森県>

三沢町

八戸市

地震発生後に八戸市社協に聞き取り (3月23日頃) (首都大学東京・山下祐介会員)

階上町

<岩手県>

・岩手大学全体として、沿岸復興支援プロジェクトとして、主として岩手県の沿岸部全域を対象として、工学、農学関連からはじまって、少数派の社会学にいたるまで、50件ほどのプロジェクトを立ち上げ中。

(岩手大学・麦倉哲会員)

野田村

○弘前大学

弘前大学人文学部ボランティアセンターを設置。岩手県野田村へ、学生市民とともにオール弘前を結成して定期的に支援活動。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/eprc/vol/index.html>

○弘前市・弘前大学人文学部ボランティアセンター・チーム北リアスとともに、岩手県野田村支援。対口支援を模索。北東北の間接被害地域(青森県津軽地方)と直接被害地域(岩手県三陸北部地域)の共生可能性について研究を続けたい。(首都大学東京・山下祐介会員)

普代村

田野畑村

岩手県立大学・吉野会員と庄司会員が調査との情報。

宮古市田老町

4月に聞き取り(首都大学東京・山下祐介会員)

宮古市

津軽石川流域、閉伊川流域がフィールドの大阪府立大学・福永真弓会員が震災後もフォロー。

山田町

・社会学者として私が参加している小さな研究会にFDs研究会という研究会があります(Food Deserts: 食の砂漠 問題を研究しています)。主に地理学者で構成されていますが、社会学者

として私が入っています。この研究グループが、山田町で食の供給について調査を行い、秋の日本地理学会にて報告する予定です。（明治学院大学・浅川達人会員）

大槌町吉里吉里地区

・○明治学院大学ボランティアセンターとして、4月より被災地支援活動を継続して行っています。活動は大別して以下の3種類です。(1)岩手県大槌町吉里吉里地区での活動、(2)東北学院大学と連携しての気仙沼での活動、(3)他のNPOなどと連携して行う活動。このうち(1)については、4月から毎月1回は現地を訪れ活動しています。

活動資金は、学内でおこなった募金、ボランティアチャレンジファンドとして蓄えてきたお金、そして中央募金会から助成いただいたお金をあてています。

（わたしは、ボランティアセンター長補佐として、主に(1)を担当しています）

○また明治学院大学社会学部附属研究所は、ボランティアセンターと連携協力して、被災地支援活動の記録化に着手しています。（私は同研究所の調査研究部門主任も兼務しているという事情があるため、研究所のスタッフにも助けていただいています）

（明治学院大学・浅川達人会員）

・○明学ボランティアセンターの被災地支援の一環ですが、主に私が個人的に対応している被災地支援として、「『吉里吉里語辞典』電子データ化プロジェクト」があります。吉里吉里地区の方言を集めた辞典があるのですが、津波に流されてしまいました。流された品のなかから拾った1冊をもとに、電子データ化して、言葉と言葉にこめられた生活を保存する試みです。

○8/3, 4, 5と吉里吉里を訪れ、「復活の薪プロジェクト」にボランティアとして参加してきます。この「復活の薪プロジェクト」を海外にも広報するために、現在、同ホームページを多言語訳するプロジェクトも起こしています。（これも私が個人的に引き受けています）

（明治学院大学・浅川達人会員）

大槌町（山田町）

・震災に関連して、岩手大学の、社会学（竹村さん、小野澤さんら）や他の分野の先生方と相談をしつつ、地域社会の持続性、コミュニティの再生という視点で、

岩手県大槌町にて

被災実態（主として人命、地域活動団体）、被災関係者からの聞き取り

避難所リーダーインタビュー

仮設住宅住民調査

岩手県大槌町にて

仮設住宅住民調査

などを進行・準備中。

（岩手大学・麦倉哲会員）

・麦倉哲会員を代表とするチームに参加し、三井物産環境基金より、研究助成を受けている。

www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/fund/pdf/r_110714_03.pdf

「沿岸地域の復興とコミュニティの再建ならびに持続可能な
社会の構築に関する研究—主として大槌町、山田町を対象として—」
(農業・食品産業技術総合研究機構・飯坂正弘会員)

・被災写真の修復と被災冊子の汚れ落としのボランティアに参加 (添付ファイル「新聞
記事」2011年6月8日参照、大槌町への支援)。福岡県小郡市内のボランティアグル
ープ団体の活動へ、個人として参加させてもらうことが出来ました。(山口信枝会員)

釜石市

大船渡市

○岩手県立大学
大船渡市との連携

・富士常葉大学では防災系の研究者で岩手～宮城の沿岸部に調査。文系教員としては私が岩手県
大船渡市に通っている。また学生によるボランティア活動(静岡県ボランティア協会経由)を継
続。
(富士常葉大学・木村周平会員)

陸前高田市

・所属するNPO法人(NPO法人教育支援グループEd.ベンチャー)を通して、学校支援・子ども
支援を4月より毎週末継続的に実施。(陸前高田)
詳しくはHPにてご確認ください。
支援通信、最近2回分を添付。
(東京理科大学・清水睦美会員)

○日本社会学会大会の自由報告部会「災害」
「津波被災地における非浸水地区の果たす役割——岩手県陸前高田市横田町を事例として——」
(東北大学・牧野友紀会員)

<宮城県>

・奈良教育大学では、「学習補助等を中心とした教育復興支援活動」を行っています。
奈良教育大学では宮城教育大学教育復興支援センターと連携し、東日本大震災で被災した地域
の学校等において、学習補助等を中心とした教育復興支援活動を行うこととし、ボランティアを
募集・派遣。<http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/higasinihondaisinsai.html>
(奈良教育大学・渡辺伸一会員)

○環境社会学会HPより
立教大学・萩原です。
個人的活動・状況報告
3月13日以降、宮城県内NPOおよび国際NGO「難民を助ける会」を通して、支援物資を被

災地に届ける活動開始。

4月26日～29日 気仙沼、北上町、牡鹿半島、亘理町に支援物資を届けながら、友人の四代目江戸家猫八師匠（気仙沼に従兄弟在住、3月末安否確認）、二代目小猫さん親子と11か所慰問。宮城県庁時代（2001年3月～2003年4月）に「食育の里づくり」を実施した、北上町は、24の集落のうち、4つしか残らなかったというほどの壊滅状態。今後の復興にあたり、当時の北上町企画課長と連絡を取り合っている。

5月初旬に、南三陸町からの避難者1000人を受け入れる、登米市役所男女共同参画担当者から、女性被災者（500人弱）への支援物資の要請あり。男女共同参画推進委員を「えがおねっと」として組織化していただき、支援物資の受け入れ態勢を整え、女性被災者のニーズ調査を実施。それを基に大手、中小企業、日本家政学会を通して、支援物資を送付。6月3, 4, 5日に登米市内11か所の避難所において、女性被災者を中心とした調査を「えがおねっと」とともに実施する予定。

今後の予定

登米市・鳴子町に南三陸町、女川町から避難している小中高生を対象とした学習支援のマッチング（都内教育系大学と教育委員会）を6月5日に予定。

登米市の担当者を招き、「災害と男女共同参画」のシンポジウムを小金井市で6月30日で開催予定。

研究予定：ジェンダーと災害をテーマにした、調査・研究を実施する予定。

萩原は常務理事を務める日本NPOセンターの支援活動については、HPをご参照ください。

<http://www.jnpoc.ne.jp>

- 「東日本大震災視察・交流記（6月10日～14日） ―農業復興の可能性を探るために―」（1）～（15）（「東日本大震災（地震、津波、原発）からの農業復興のためのプラン（案）」）
田村市、加美町、大崎市、東松島市、仙台市若林区。（岩崎信彦会員）

気仙沼市

・4月上旬より宮城県内の被災地の主要なボランティアセンターを「独立行政法人 防災科学技術研究所」の災害情報ボランティアとして巡回し、5月上旬以降は、気仙沼市本吉地区の災害ボランティアセンターの支援等を行いながら現地調査。

上毛新聞「視点 オピニオン21」千川執筆の記事に記載。

<http://www.raijin.com/news/kikaku/opinion2011/opinion20110622.html>

今後は、気仙沼市本吉地区の仮設住宅入居者の生活支援活動を「NPO法人 基盤地図情報活用研究会」の理事として中央共同募金の活動支援資金の助成を受けて

（<http://www.akaihane.or.jp/organization/pdf/0715/01.pdf>の7ページの43に概要が記載）、2年間を目処として行いながら、事例研究を行う。（大妻女子大学・千川剛史会員）

・個人（本人と大学院生）で「気仙沼市災害ボランティアセンター」の活動に参加（5月、7月／気仙沼市内 及び大島でのボランティア）<http://msv3151.c-bosai.jp/group.php?gid=10247>
（明治大学・藤田結子会員）

南三陸町

- ・宮城県内での外国人支援ボランティア

ボランティアを兼ねて、南三陸町志津川でフィリピン系の外国人女性に対する職業訓練に参加。そこに参加する外国人子弟への学習支援も、継続的に行っている。

7月23日から参加したので、本当に始まったばかり。ホームヘルパー2級や、後々の介護士の資格取得を目指した取り組みで、2年間ほど継続する予定。

(東北大学大学院・坪田光平会員)

女川町

石巻市

- ・取り組み名：Smile Trade 10%

主な内容：毎週土曜日に山形から被災地（宮城県石巻市他）へ、日帰りのボランティアバスを出している。ボランティアは、山形大学と東北芸術工科大学の大学生・教職員、学外の一般の方、毎回50名程度。

実施主体：山形大学（山形大学エンrollment・マネジメント部平尾清教授）と東北芸術工科大学の共同プロジェクト。

詳細：Smile Trade 10%のホームページがあるのでご覧下さい。

<http://www.smiletrade10.com/engine/>

本メールの連絡者・坂無は、本プロジェクトの実施主体ではありません。これまで数回このボランティアバスや、個人で被災地へ行っているため、今回のメールの情報として適切か分かりませんが、連絡差し上げました。さらに詳しい情報必要でしたら、実施主体へつなぐことが可能ですので、ご連絡下さい。（山形大学・坂無淳会員）

○7月16日に専修大学で「社会関係資本研究センター」主催のシンポジウムが開催。「復旧・復興・再生への絆と連携」がテーマで、石巻市長や、復興構想会議委員の大西隆氏、大矢根淳氏らの講演・報告。専大が石巻にも大学を持っている関係。

・拓殖大学国際学部では、拓大ボランティアチームを結成し、宮城県石巻市に学生を派遣しています。当地を選んだのは石巻出身の被災学生がおり、かつ、彼が石巻災害復興支援協議会事務局でボランティアをしているためです。さらに国際学部の活動が引き金となり、大学としても学生派遣を行うようになりました。

派遣時期：

4月29日～5月5日 学生19名 引率 新田目夏実 連携団体 On the Road

7月7日～7月10日 学生23名 引率 新田目夏実 連携団体 市民ネット石巻

7月29日～8月6日 学生8名 引率者なし 連携団体 ピースボート、チーム神戸

この間の活動の一部は拓大国際学部のHPに報告されています。

<http://www.fis.takushoku-u.ac.jp/index.html>

東日本大震災復興支援

Web マガジン 世界は今 vol 12.

また、産経新聞7月24日朝刊に、一面を使い、大々的に報道されました

「ボランティアは究極の教育—現場体験から真実が見える」

(拓殖大学・新田目夏実会員)

・私自身、石巻高校出身で、同窓生には小中学校教員も多く誤報・デマ・無視に悩まされている面々も多くいます。

4月に、ようやく営業再開した「うどん屋さん」の隣でボランティアが「うどん炊き出し」をしていたときは啞然でした。

そのこと自体、社会学的には研究対象かもしれませんが、両親が被災者でもあり、親類の多くを亡くした身としては、なかなか「自分で自分を研究しよう」という気にはなれませんが、どなたかが石巻を研究対象としたいときの情報提供者くらいには、なれると思います。

(農業・食品産業技術総合研究機構・飯坂正弘会員)

東松島市

・東松島市の消防団活動について調査を実施。(後藤一蔵会員)

松島町

塩竈市

七ヶ浜町

多賀城市

仙台市

・震災後、被災地(仙台市)におけるホームレスの動向に関する調査・研究をおこない、震災後は、被災者支援もおこなってきた。

震災後の路上生活者の状況について「ホームレスと社会」に論文を寄稿(2011年11月掲載予定)、日本社会学会で報告予定。東北社会学会でも震災後のNPOの被災者支援の取組みを報告。

(東北大学大学院・新田貴之会員)

○日本社会学会大会の自由報告部会「災害」

「震災時における野宿者の包摂／排除の研究——仙台市の事例として——」(東北大学・新田貴之会員)

・仙台市内小学校でのフィールドワーク(2010年度から継続中)

学校名は伏せますが、被災した別の小学校と校舎を共同で使用しています。

私はそこに在籍しているフィリピン系ニューカマーを入り込みで支援していたのですが、そのときちょうど震災と重なり、フィールドワーク中にフィールドが避難所になりました。

現在では避難所が終了したため、ほぼ復旧しつつある状況といえます。

(東北大学大学院・坪田光平会員)

・被災地の仙台を本拠地とするプロバスケットボールbjリーグの仙台89ersに金銭的な寄付をした。(筑波大学・高橋義雄会員)

名取市

岩沼市

亘理町

5月中旬に聞き取り(首都大学東京・山下祐介会員)

山元町

<福島県>

○環境社会学会

例会でワークショップを実施。震災原発事故特別委員会設置。(1)避難者追跡調査の研究者ネットワーク、(2)原子力問題年表・資料集。

・立命館大学生存学センターでは、「災害と障害者・病者」についてウェブ上での情報提供、被災地障がい者支援センターふくしまとの連携、などに取り組んでおります。

詳細につきましては、下記のウェブサイトなどをご確認いただけます。

災害と障害者・病者：東日本大震災 <http://www.arsvi.com/d/d10.htm>

東日本大震災：「生存学」関連 <http://www.arsvi.com/d/d102011c.htm>

(立命館大学PD・渡辺克典会員 上記取り組みの窓口担当)

○<福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト緊急報告会>

<http://cmps.utsunomiya-u.ac.jp/news/news2.html>

日時：2011年7月13日(水)12時50分～16時00分

場所：宇都宮大学峰キャンパス 共通教育B棟1223教室

<基調講演>

「福島県における子どもたちの状況報告と対策—地域社会と不安のあいだで」

福島大学 災害復興研究所 放射能汚染による「生活リスク」研究チーム

中川伸二(教授)、西崎伸子(准教授)

<報告>—福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト報告

「栃木における福島から乳幼児・妊産婦さんのニーズと取り巻く環境」

附属多文化公共圏センター員・福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト事務局長 阪本公美子(准教授)

「福島からのお母さんとお子さんのニーズに応じて—学生ボランティアの立場から」

FnnnP Jr. 宇都宮大学国際学部学生 須田千温、濱田清貴、阿部有沙子他

「新潟における福島から乳幼児・妊産婦さんのニーズと取り巻く環境」

宇都宮大学国際学部・福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト新潟チーム代表 高橋若菜(准教授)

<ディスカッション>

司 会 : 重田康博 (センター長・プロジェクト代表)

パネリスト : 西崎伸子、阪本公美子、高橋若菜、須田千温

コメンテーター : 陣内雄次、田口卓臣、スエヨシ・アナ、モリソン・バーバラ

主 催 : 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト (通称:FSP) (事務局:宇都宮大学)

新地町

相馬市

南相馬市

飯舘村

一橋大学大学院・佐藤彰彦会員が震災前から調査。震災後も調査継続。

浪江町

双葉町

東京大学大学院・原田峻会員が、埼玉県の避難所となった、さいたまスーパーアリーナ (3月まで) と旧県立騎西高校 (4月以降) を支援・調査。

大熊町

富岡町・川内村

首都大学東京大学院・須永将史会員、吉田耕平会員らが、避難所となったビッグパレット福島を支援、調査。東日本大震災・福島第一原発事故関連の避難者支援に関わる社会学研究者のネットワークと、富岡町との連携調査を模索中。

楢葉町

広野町

いわき市

- ・ボランティア活動、および報告会の開催
第2回 東日本大震災ボランティア活動報告会
～支援ニーズの変化とボランティア～
日時: 2011年7月28日(木) 18:10~19:30
会場: 明星大学ボランティアセンター (大学会館2階)
(明星大学・渡戸一郎会員)

・私の出身は福島県いわき市です。兄といとこが被災者です。一時は避難所におりました。いとこはいわき市で障害者福祉施設を運営しておりました。しかし地震のため運営が困難になったため、三月から四月にかけて募金活動を行いました。その後も受け付けています。叔母その他の親

戚はおなじ福島県の南相馬市に住んでいます。地震で死亡した親戚の葬儀のため、先月南相馬市に行ってきました。また私のゼミ生の弟が津波で死亡しました。

震災以降いろいろな事を考えましたが、授業の中で積極的に災害について取り上げています。仕事のやり方もすっかり変わってしまいました。フェイスブック、twitterの利用・活用、ノートブック PC から iPad への以降、クラウドコンピューティングなど。

(拓殖大学・新田目夏実会員)

広域避難者調査

・調査主体：福島大学災害復興研究所および上智大学グローバル・コンサーン研究所

調査名：旧赤坂プリンスホテル利用者への簡易的質問紙調査および聞き取り調査

調査期間：6月中旬～下旬

概要：福島大学、上智大学、清泉女子大学の研究者と浜本が4名で実施（浜本以外は福祉行政、人類学などを専門としており、社会学ではない）。

施設を運営している東京都の協力を得たものの、さまざまな制約があり、質問紙調査の対象者選択は厳密な全数調査あるいはサンプリング調査になっていないが（また質問項目も十分練られていないが）、6月下旬の赤プリ退去期限までに70サンプルを回収。避難経路、不安内容、知りたい情報、退去期限後の予定などについて15程度の間を設けた。

現在、データクリーニングをしており、まもなく単純集計が出る予定。聞き取り調査は約15名の方に実施済みで、赤プリ退去後の生活を追跡調査する計画である。赤プリ利用者は、いわき市など30キロ圏外の自主避難者が大半を占めており、小さい子どもを抱えた母親が、地元に残る夫家族と離れて、母子のみで避難しているケースが多いのが特徴的である。こうした母親は、「福島を見捨てている」という後ろめたさがある一方で、「逃げられるのなら子供のために逃げたいほうがよい」という狭間でジレンマ状況にあることがこれまでに把握されている。

今後、福島大学災害復興研究所が県外避難者を対象とする、大がかりな調査計画をもっているようであり、それらの動向と多少なりとも連携しつつ、今後の調査計画を模索しているところである。（名古屋市立大学・浜本篤史会員）

・東京大学大学院・原田峻会員が、埼玉県内の自治体や市民団体がおこなっている避難者支援の状況を調査。

・1) 広域避難者支援の組織化：愛知県を主な事例として

2) 被災者の「二重ローン問題」に関する法制化過程

方法 参与観察（アクション・リサーチ）

調査上の立場 反貧困ネットワークあいち事務局メンバー（←主にテーマ1）に関して）

助成金 科研費「若手研究A」※（期間2009年度～2012年度）

※ 研究課題：「過重債務問題の予防と解決に向けた支援者ネットワーク形成に関する国際比較研究」

（概要ファイル有り）（金城学院大学・大山小夜）

○東日本大震災・福島第一原発事故関連の避難者支援に関わる社会学研究者のネットワーク

本ネットワークは環境社会学会会員を中心に、本学会のワークショップを経て立ち上げられた。今回の東日本大震災による津波被害・福島第一原発事故避難者の把握・支援について情報交換を行うとともに、社会学者の協力・共同作業を模索するもの。

第1回会合 2011年6月29日 法政大学ポアソナードタワー

「双葉郡関係者（町村・町村民）への訪問の課題と現状」首都大学東京 吉田耕平

第2回会合 2011年7月27日 法政大学ポアソナードタワー（予定）

1. 飯館村の現状と今後の問題について 一橋大学 佐藤彰彦
2. さいたまスーパーアリーナにおける支援の展開とその後の経過について 東京大学 原田峻
3. 富岡町の現状と避難者調査の可能性について

富岡町役場総務課長補佐 菅野利行

福島県文化スポーツ局生涯学習課 天野和彦

中越防災安全推進機構 復興デザインセンター長 稲垣文彦

首都大学東京 須永将史

（ネットワーク参加者の活動状況あり）（首都大学東京・山下祐介会員）

<茨城県>

・筑波大学の対応

<http://www.tsukuba.ac.jp/disaster0311/index.html>

「筑波大学東日本大震災復興支援プログラム」

福島原子力発電所の事故による放射性物質関係情報・対応等（筑波大学・高橋義雄会員）

<群馬県>

・<日本臨床発達心理士会>日本臨床発達心理士会群馬支部事務局長として、群馬県内に避難してこられた被災者の方々の「心理的サポート」。被災者の方が手にとってわかりやすいような心理学的な情報を記したパンフレットも作成、配布。実際には直接的な支援ではなく、被災者の方々に対して休みなく支援し続ける方々に対する「心理的サポート」（高崎健康福祉大学・宮内洋会員）

<千葉県>

・明治大学震災復興支援センター『浦安ボランティア活動拠点』

<http://www.meiji.ac.jp/koho/desukara/university/2011/20110609urayasu.html>

（明治大学・藤田結子会員）

<その他、首都圏など（広域避難者調査は福島県を参照）>

・江戸川大学と大学立地地域社会： 市・NPO・UR・大学参加の協議体で実施

○山口大学・高橋征仁先生が、大学生を対象に、震災と原発事故に関する意識調査。英国の研究者と共同で、首都圏の大学も含め7校で調査との情報。（山口大学・横田尚俊会員）

・ (1) 中森と東洋大学社会学部の中村功先生が中心となり、津波被災地の住民ヒアリング調査を続けている。この結果をもとに、津波と避難、災害情報の機能を中心として、秋にアンケート調査の実施を検討中。

(2) 中森研究室で、気象庁が適切な緊急地震速報が発表されなかったことなど、緊急地震速報に関する評価と意識調査を実施した。

(3) これからの研究であるが、今回の一連のテレビ放送の内容分析を予定している。

(日本大学文理学部・中森広道会員)

・ 消防庁消防研究センターにて 研究評価委員として関与(プロジェクトが始まる可能性あり)
(江戸川大学・大内田鶴子会員)

・ 私を含む国際学部教員数名が、インドネシアにおける災害対策について共同プロジェクトを行う予定です。来年春現地調査の予定。

(拓殖大学・新田目夏実会員)

・ 名古屋市昭和区における「福祉まつり」でのシンポジウム。来る 9.11 に「私たちは東日本大震災に何を学ぶか」というタイトルで、シンポジウムを開催。(東海学園大学・宮本益治会員)

2. テーマ別研究情報 (特定の対象地なしのもののみ)

スポーツ

・ 日本スポーツ産業学会にて「震災とスポーツマネジメント」と題するシンポジウムを企画。シンポジウム実施日は、7月17日、会場は東京工業大学。(筑波大学・高橋義雄会員)

・ 日本スポーツ産業学会では今年の学会大会テーマを
「『転換期のスポーツとスポーツ産業

–危機に負けるな！がんばれニッポン！ふんばれスポーツ！–』」

として実施した。内容は以下のHPの通り。

http://www.spo-sun.gr.jp/html/event/a_late.html

(筑波大学・高橋義雄会員)

情報

・ ツイッター、ブログ、SNSなどで、いわゆる「危険厨」と呼ばれている(ときには自称する)人たちが、「拡散希望」と題して、明らかに誤った憶測 や間違った情報(デマ)を垂れ流しにしているが、彼らがデマを作り上げる過程について研究。(前橋工科大学・工藤浩会員)

・ 日本マスコミュニケーション学会 6/12 シンポジウム「東日本大震災とメディア」

http://wwwsoc.nii.ac.jp/mscom/event/annual_meeting/11spring/11spring_sympto.pdf

(明治大学・藤田結子会員)

・日本社会情報学会(JSIS&JASI) 2011 年度大会(9月9日・静岡大学)で、東日本大震災についてのシンポジウムを開催予定。(日本社会情報学会(JSIS&JASI)・静岡大学・藤井史朗会員)

○日本社会学会大会の自由報告部会「災害」

「デジタルメディアが救う「記憶」とは何か?—東日本大震災「思い出サルベージ」プロジェクトの成果報告—」(日本学術振興会(京都大学) 溝口佑爾会員)

宗教

・「被災地における宗教施設・宗教者の災害救援活動の調査について」(抜粋)

■調査概要・目的

被災地で避難場所や救援活動の拠点となった宗教施設や宗教者の活動の実態と、市町村、他宗教、民間組織間の連携の実態・課題を調査する。その上で、被災コミュニティの復興にむけて、各組織がどのように連携し、地域コミュニティの復興にどのような機能を果たしているのか、果たしうるかを調査し、課題を抽出する。その上で、様々な連携、後方支援のあり方を検討する。

地縁、社縁、血縁が薄れる現代社会にあつて、ソーシャル・キャピタルを創出する源泉として宗教施設、NPO等の連携を丹念に調査・検討することにより、現代的なコミュニティのあり方、災害に強い社会の仕組み、東海・南海・東南海連動型地震に備えて、地域連携のプラットフォーム作りへの実践的提言を行う。

■研究組織・連携

- ① 稲場圭信、黒崎浩行、板井正斉(皇学館大学准教授)、濱田陽(帝京大学准教授)など、「宗教と社会貢献研究会」(旧:宗教の社会貢献活動研究プロジェクト)のメンバー
- ② 大阪大学大学院人間科学研究科「平成23年度ヒューマンサイエンスプロジェクト」
「コミュニティ復興の人間科学」(代表:稲場圭信)
<http://altruism.blog56.fc2.com/blog-entry-227.html>
- ③ 國學院大学 平成23年度 学部共同研究費 神道文化学部「地域再生と神社に関する調査とカリキュラム・教材開発」(代表:黒崎浩行、共同研究者:松本久史・藤本頼生)
- ④ 科研基盤研究B 「環太平洋における宗教NGOの国際的ネットワークに関する研究」(代表:稲場圭信、分担者:金子昭(天理大学教授)、櫻井義秀(北海道大学教授)、関嘉寛(関西学院大学准教授)、濱田陽)
- ⑤ 京都大学「こころの未来研究センター」『東日本大震災関連プロジェクト〜こころの再生に向けて〜』(鎌田東二)
http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/eqmirai/2011/06/post_5.html
- ⑥ 大正大学いわき市調査・支援プロジェクト(代表:弓山達也)
- ⑦ 科研基盤研究C「無縁社会における宗教の可能性に関する調査研究」(代表:宮本要太郎、分担者:稲場圭信、金子昭、連携者:白波瀬達也、研究協力者:渡辺順一)「支縁のまちネットワーク」の研究部門としてホームレス支援調査などがメインになるが、部分的に連携。

■連携のお願い

被災地の宗教施設を訪問調査されている方々も多いと思います。調査を計画中の方もいらっしゃると思います。被災地の宗教施設・宗教者の方々の負担にならないように、それぞれの調査をお互いに尊重しながら、連携協力させて頂ければと願っています。ご連絡をお待ちしております。(大阪大学・稲場圭信会員)

・以下の二つを立ち上げて、運営。

宗教者災害救援ネットワーク <http://www.facebook.com/FBNERJ>

宗教者災害救援マップ <http://sites.google.com/site/fbnerjmap/>

また、以下の会を東大の島菌進教授を代表に、世話人の一人として運営
宗教者災害支援連絡会 <http://www.indranet.jp/syuenren/>
(大阪大学・稲場圭信会員)

原子力・エネルギー

・「原爆と原発の戦後史に関する予備的研究」という研究課題で慶応大学大学院社会学研究科から今年度30万円の助成。研究組織は、研究代表者が浜、研究分担者4名(竹村英樹・小倉康嗣・高山真・木村豊)。実質的には有末賢先生と2007年からやってきた被爆者調査史研究会(他大学の院生も含めて10名)で得たもの。(研究計画添付) (浜日出夫会員)

・私の最も主張したいことは、単なる(これも大問題であることは理解しています)震災という事象を対象とするのではなく、震災事象により、より鮮明になった原子力社会構造の、異常さを、根源的に論じたいのです。(詳細ファイル有り) (宮内紀晴会員)

・関西学院大学「ゼロカーボン社会研究センター」について

<http://www-soc.kwansei.ac.jp/okuno/zero.html>

ここは科研で言えば「総括班」にあたる部分で、9月には、2回目の「研究助成公募」を行う。これについては、日本社会学会、関西社会学会、社会情報学会などの書誌に、日産財団から「公募広告」を出すように、現在、交渉中。(情報は、順次RAの南さんから送らせていただきます。)
(関西学院大学社会学部・奥野卓司会員)

・関西学院大学「Zero Carbon Society 研究センター」について

.....

「Zero Carbon Society 研究センター」 (2010年10月設立)

センター長：奥野卓司 (関西学院大学総合図書館長・社会学部教授)

副センター長：久保田稔 (関西学院大学保健館長・社会学部教授)

本研究センターでは、昨年来、低炭素社会における「人間の移動」と「移動価値」に着目して、そのあり方について学際的な視点から理論的、実証的にアプローチしてきました。

今後、私たちの社会が低炭素社会へと向かうのはもはや前提であり、その低炭素化社会における人間の生活や文化はどう変わるのか、その道筋と帰趨を明らかにする必要があります。

しかしながら、今時の震災により、その被災地の未曾有の被害からの復興と、原発事故の反省による脱原発の流れは、ともすると「低炭素化」と対立し、旧来の技術信仰による成長、効率化の路線に逆戻りする危険性も含んでいます。今こそ、人間にとって望ましい技術を、それを受け入れる生活者の社会関係の中で検討しなければなりません。

このたび、本研究センターでは、関西学院大学研究助成（「東日本大震災関連共同研究」）を受け、東日本大震災の被災地域の復興に向けた「都市の再生」の将来像についての調査を実施する予定です。この目的のために、社会学中心のセンター所属研究員に加えて、あらたに都市工学、自動車工学、情報工学の技術系の研究者が参画し、さらに NPO 論、ボランティア論、社会調査などの分野で卓越した実績を上げている社会学の研究者を研究分担者に加えました。

この調査および研究成果については、2011 年度中に「Zero Carbon Society 研究センター紀要」を発行して公表する予定です。

上記研究助成のメンバー、内容については添付資料をご参照いただきますよう、お願い申し上げます。

（関西学院大学・南裕一郎会員）

・＜公正な持続可能社会を求めて＞講演とディスカッション「脱原発と再生可能エネルギー」（龍谷大学里山学研究センター主催、2011 年 7 月 23 日）

<http://www.2011shinsai.info/en/node/395>

●飯田哲也（環境エネルギー政策研究所所長）

「脱原発と再生可能エネルギー促進 必要な政策と行動とは」 17：30～

●アイリーン・美緒子・スミス（NGO グリーン・アクション代表）

「原発をめぐる日本社会とメディア」 16：00～

●朴勝俊（関西学院大学総合政策学部准教授）

「原発事故の被害総額 京都に迫る危険性」 15：00～

（龍谷大学社会学部・田中滋会員）

ボランティア・支援

・渡戸一郎（明星大学ボランティアセンター長／人文学部人間社会学科教員）

「震災ボランティア活動に伴う学生支援のあり方を考える」2011 年 7 月 29 日 多摩学生支援研究会（明星大学・渡戸一郎会員）

・仁平典宏「被災者支援から問い直す『新しい公共』」 『POSSE』11 号 pp.88-96. 2011 年 5 月 25 日発行（法政大学・仁平典宏会員）です。

帰宅困難・計画停電・買物行動

・先生方の協力もいただき、下記の調査を実施。結果については、弊社 HP で公開しておりご希望の方には報告書冊子をお送りしております。

・東日本大震災に関する調査（帰宅困難）23 年 WEB

・東日本大震災に関する調査（買物行動）23 年 WEB

・東日本大震災に関する調査（計画停電）23 年 WEB

・東日本大震災「宮城県沿岸部における被災地アンケート」23 年個別面接
プレスリリースは↓

<http://www.surece.co.jp/src/press/backnumber/index.html>

(サーベイリサーチセンター・遠藤倫代会員)

2011/07/23、8/3 改訂、8/4 再編集版 山下記